

## 山口県立下関北高等学校設置式 校長あいさつ

狗留孫の遙かなる靈峰、響灘の高き波音、角島を照らす<sup>ひかり</sup>光芒、油谷湾に寄せる<sup>にいしお</sup>新潮。  
豊かな自然が、秋の深まりとともに穏やかな色彩を放ち、新しい学校の出発に彩りを添えてくれています。

山口県教育委員会教育長 浅原 司様の御臨席のもと、本日、ここに、山口県立下関北高等学校の設置式が挙行されますことは、この上ない喜びであります。

新高校の設置にあたり、御尽力、御支援、御指導くださいました関係者の皆様に、まずもって厚くお礼を申し上げます。

県立響高等学校と豊北高等学校が統合して来春4月に開校する「山口県立下関北高等学校」は、両校の歴史と伝統を継承しながらも、下関市の北部唯一の普通科高校として、生徒やその保護者、地域の皆様の期待を一身に背負い、また、その期待に応える学校にならなければなりません。

生徒の人格の完成や進路希望の実現、その基盤となる学びや学校生活の充実といった学校が本来有する教育的使命とともに、社会の有為の形成者を育成するという社会的使命を有する高校にあって、とりわけ、少子高齢化、人口減少が進むこの地に誕生する新高校では、学校が中心となってつくりだす地域社会、すなわち、スクール・コミュニティーという新しい発想で学校づくりを進めていく必要があります。

このため、下関北高校では、幅広い学力や進路希望への対応や、学力向上をめざしたきめ細かな指導、さらには、新たに求められる学力に対応する教育システムを充実させながら、地域の皆様の声を学校運営に反映する仕組みを整え、地域と協働した様々な活動を展開していくこととしています。

こうした地域と連携した取組は、生徒の社会的職業的な自立を促し、豊かな心を育むとともに、下関北高校を地域に存在感のあるかけがえのない高校とすることでしょう。

桜の花が咲くころ、新しい制服に身を包み、希望に胸を膨らませ、入学してくる下関北高校第1期生の期待、地域の期待にしっかりと応えることができるよう、教職員、在校生徒、一丸となって準備を進め、4月には新しい力を得て、新しい高校の、新しい歴史を拓いてまいることをお誓いし、また、関係者の皆様には、引き続き温かい御支援を賜りますようお願い申し上げます、御挨拶とさせていただきます。

平成29年11月1日

山口県立下関北高等学校 校長 竹村和之